

令和2年度
千代田区在宅医療・介護連携推進協議会

— 議 事 録 —

日 時：令和3年3月 書面開催

日時	令和3年3月	
場所	書面開催	
出席者	委員	井藤会長、高野委員、元田委員、加賀委員、西田委員、臼田委員、池田委員、佐々部委員、堀川委員、梶原委員、三橋委員、鳥飼委員、柳谷委員、荻委員、二上委員、松永委員、小野寺委員、守屋委員 歌川保健福祉部長、原田千代田保健所長兼地域保健担当部長
	事務局	地域保健課 山崎課長 健康推進課 松本課長 高齢介護課 土谷課長 在宅支援課 佐藤課長、高山係長、赤石澤係長、古庄係長、竹中主事

■議題

- (1) 会長の互選について
- (2) 令和2年度千代田区在宅医療・介護連携推進協議会 認知症連携部会の報告
- (3) 令和2年度千代田区在宅医療・介護連携推進事業の報告
- (4) 高齢者の医療介護連携における新型コロナウイルスの影響

■会長の互選について

異議なしのため、井藤英喜氏を会長に選任します。

■議事録

井藤委員	<p>認知症連携推進部会報告について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オレンジプランに基づいて体系的に体制を整備していることは評価出来る 2) 「認知症ケアパスの作成・普及」は、コロナで実績が低下している。このまましりすぼみにならないように、本年度は再度広報を強化する必要があるのではないか。 3) コロナの影響で閉じこもり認知機能が低下する例が多くあると思われる。神田地区で試みているひとり暮らしと高齢者のみの世帯の見守り訪問事業を麴町地区にもひろげ、認知症の早期発見につなげるといいと思う。 <p>高齢者退院支援</p> <p>千代田区が多くの高齢者の退院支援を行っていることは高く評価出来る。</p>
------	--

	<p>千代田区医療ステイ事業</p> <p>九段坂病院が多くの実績をあげられている事は高く評価出来る。</p> <p>高齢者の医療介護連携におけるコロナの影響</p> <p>問題点を整理し、今後どのように対応していくかについて指針、ガイドラインをつくってはどうか。</p> <p>医療と介護の連携づくりに関する研修</p> <p>コロナという困難な状況の中、よく研修会を企画・実施されている。</p>
高野委員	<p>コロナ禍で様々な制限が生じ訪問が必要な症例に影響が大きかった一年であったが、地域を支える人々の努力が生かされた一年でもあった。</p> <p>今年はまだ一歩前進し、千代田区らしい医療介護連携を構築できれば良いと思う。</p> <p>ご苦労さまでした。</p>
加賀委員	<p>コロナ禍の中、対面式の治療・介護が難しい時代となっています。しかし、丁寧に一人一人対応が必要と思います。高齢者住宅の往診にも行っておりますが、皆様孤立感が強くなっています。</p> <p>なるべくデイサービスに行ったり、友達との会話も重要と思います。高齢者のケアはやはりケアマネさんと相談し、その方がどんなサービスがベストなのかしっかりと対応していくことが大切だと思います。</p> <p>千代田区は、いつも言うておりますが、マンションに一人で住んでおられるので、現場までケアしている方がいつでも部屋には入れる様、どのようにしたら良いか決めておく必要があります。孤独死だけは絶対に避けたいと思います。</p>
西田委員	<p>協議会に関する質問はございません。</p> <p>歯科医師会と致しましては、区民の皆様には歯科は訪問をしているという周知がされていない事を受け、HPやその他の方法で情報を発信していかなくてはならないと考えております。</p> <p>また、フレイル対策の一環としてのオーラルフレイル対策も病気になる前の『虚弱』のサインを見逃さないためにも、老化が進む前の年齢においてフレイル健診をすすめていただきたいと思います。75歳以上にフレイル健診を行うのではなく、65歳以上等早い段階で健診を行うことで予防の意味がなされると考えます。</p> <p>引き続きご検討のほど、よろしく願いいたします。</p>

鳥飼委員	<p>資料 2-2 退院後の利用サービスについて</p> <p>入院時負担軽減の利用者が 91 人となっているが、対象者が何名でこの利用人数なのか。</p> <p>また、利用率が悪いとしたら、この制度の認知が出来ていない可能性はないだろうか。</p> <p>(事務局より)</p> <p>資料の利用者 91 名という数字は、退院支援を実施した人に対して事業を紹介し、利用につながった延べ人数となっております。</p> <p>利用実績（利用者数）としましては 268 件（268 名）となり、周知は出来ていると考えております。</p>
守屋委員	<p>認知症本人ミーティング（実桜の会）</p> <p>とてもよい取り組みだと思います。</p> <p>閉ざされた場所ではなく、ある程度の人と接し刺激が受けられると思います。もっと広がっていくと良いと思います。</p> <p>こころとからだのすこやかチェック（訪問調査）</p> <p>自宅にこもりがちな人には、ごく近い関係の人が外の情報を知らせたり、例えばスマホなどの新しい物を体験させてあげたりするのも良いのではと思います。</p> <p>訪問支援はとても必要だと思いますが、担当者が交代する時などは連携を上手にしないと、本人の態度が変わったりするので心配が必要だと思います。</p> <p>町会の催し物などにも参加出来るといいのですが、家族などが拒否する事もあります。認知症や障害を持った方々が、普通にコミュニティの中に参加出来るようになると思います。</p>
歌川部長	<p>コロナ禍にあって、さまざまな工夫を重ね、認知症高齢者を支える事業が行われてきたことは素晴らしいと思います。関係各位に感謝と敬意を表します。</p> <p>認知症高齢者の生活を支えるためには医療と介護の連携がますます強化されることはもとより、地域全体でサポートすることが大切です。</p> <p>今後は、オレンジプランを踏まえた千代田区の認知症施策を確実に推進し、認知症になっても暮らし続けられる地域づくりのために、「認知症施策に関する条例」の制定もこの協議会での議論の対象にして欲しいと思います。</p>

■在宅支援課からのコメント

佐藤課長	<p>令和2年度はコロナ禍による活動の制約があったなか、認知症の当事者と家族を支援する本人ミーティング、九段坂病院の有志が継続的に実施している暮らしの保健室への開催協力等、地域で介護職、医療職、行政が連携した取り組みを進めることができました。</p> <p>一方で、医療と介護が連携するためのしくみづくりには、さらなる検討が必要であると考えています。高齢者が退院後にスムーズに在宅生活に移行するために必要な支援のあり方や地域資源について、医療機関にヒアリングを行い仕組みを整えていくこと、チームケアファイルの利用実態を踏まえてより活用しやすいツールを検討することは今後の課題です。</p> <p>コロナウイルス感染症の状況を見ながら、関係機関への働きかけについて検討してまいります。</p>
------	---

以上